
【 . 自然活用編 】

伊香保森林公園地区整備方向検討調査

1章 伊香保森林公園地区の利用状況の分析

1. 位置と立地条件

(1) 対象地区の位置

- ・本調査では、町の南西部に位置する県立伊香保森林公園(224ha)と、隣接する上ノ山公園(10ha)を対象範囲とする(図1-1,2)。

(2) 対象地区の立地条件

- ・温泉街から対象地区までは、伊香保ロープウェイで直接上ノ山公園にアクセスすることができる。車では、県道渋川・松井田線を榛名湖方面に向かい、榛名町との境界手前に森林公園入口がある。
- ・対象地区は温泉街を見下ろす高台にあり、ロープウェイでは不如帰駅から見晴駅までの標高差が182mある。また、伊香保森林公園は、森林公園は二ツ岳(1,345m)を中心として、北側の町道沿(960m)から南端の相馬山(1,412m)まで、標高差が450mある。

図1-1 対象地区の位置

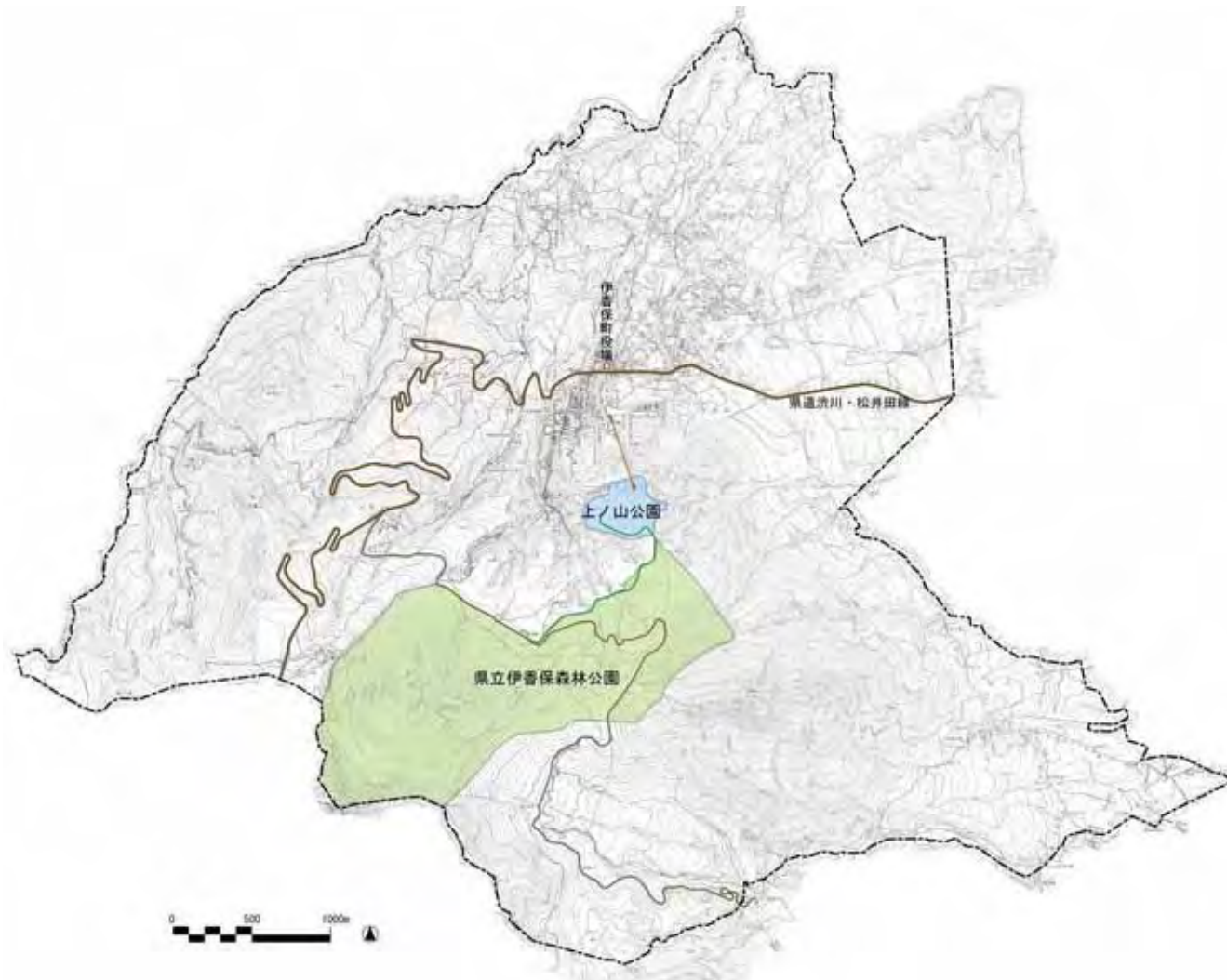


図1-2 対象地区の範囲



2. 伊香保森林公園地区の概況

(1) 資源状況

1) 植生分布

- 森林公園地区の植生状況は、北側の車道に沿った部分はカラマツを主体にアカマツやヒノキの造林地がある。その他の多くは天然林でクヌギ・コナラ林を主体にミズキやヤシャブシなどの広葉樹が多く、山の中腹はツツジ類やリョウブなどが多くなっている。ニツ岳にはミズナラやダケカンパなども比較的多く見られる。

図 1-3 伊香保町の植生分布

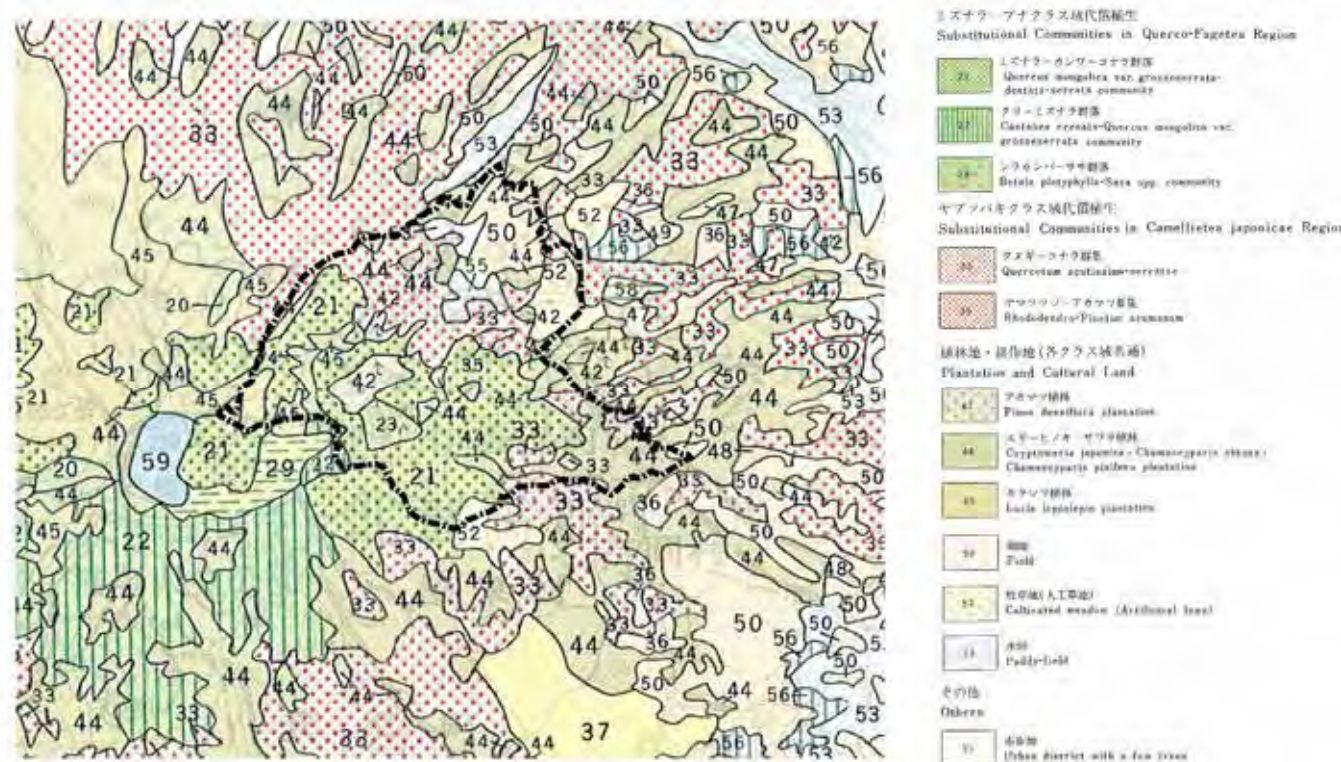


表 1-1 森林公園地区の植物の種類

分類	種類	
木本	ヤマモミジ、エンコウカエデ、ウリハダカエデ、イタヤカエデ、コミネカエデ、オオイタヤメイゲツ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、クマシデ、イヌシデ、アカシデ、ダケカンバ、ウダイカンバ、ヤシャブシ、リョウブ、ミズキ、ネジキ、ヤマツツジ、ミツバツツジ、サラサドウダン、ヒカゲツツジ、コメツツジ、ホツツジ、ミズナラ、ハリギリ、オオカメノキ、ナナカマド、ガマズミ、トネリコ、ノリウツギ、ツクバネウツギ、ニシキウツギ、タニウツギ、フジウツギ、ミツバウツギ、サワフタギ、マユミ、ツリバナ、コアジサイ、ヤマアジサイ、ハナイカダ	
草本	春	イチヤクソウ、スミレ類、イカリソウ、ルイヨウボタン、ズダヤクシュ、ヤマシャクヤク、ヒトリシズカ、フタリシズカ、ツバメオモト、エンレイソウ、マイズルソウ、ユキザサ、ショウジョウバカマ
	夏	ハキネギク、ソバナ、シデシャジン、ホタルブクロ、イワタバコ、オカトラノオ、ダイコンソウ、ヤマオダマキ、カラマツソウ、ウバユリ、ヤマユリ、ノギラン、オオバギボウシ
	秋	オクモミジハグマ、ハバヤマボクチ、ヤマハハコ、モリアザミ、ツリガネニンジン、キバナアキギリ、ハナイカリ、センブリ、リンドウ、ツリフネソウ、ワレモコウ、オクトリカブト、レンゲショウマ、フシグロセンノウ、ヤマジノホトトギス

2) 生息動物

- 森林公園地区に生息する主なほ乳類と鳥類は下表に示すとおりである。
- 伊香保森林公園は、渡り鳥の通過地点になっており、鳥類は年間を通じて多くの種類を見ることができる。
- オオタカは、絶滅のおそれがある動物に指定されている。

表 1-2 森林公園地区の生息動物

分類	種類	
ほ乳類	ノウサギ、リス、ムササビ、タヌキ、キツネ、イタチ、アナグマ、テン、ネズミ類など	
鳥類	夏鳥	ノジコ、アカモズ、チゴモズ、サンショウクイ、キビタキ、コサメビタキ、サンコウチョウ、メボソムシクイ、センダイムシクイ、エゾムシクイ、ヤブサメ、コルリ、コマドリ、クロツグミ、マミジロ、ヨタカ、ホトトギスの仲間、ツバメ類、アオバズク、サシバなど
	冬鳥	シメ、ベニマシコ、ハギマシコ、オオマシコ、マヒワ、アトリ、カシラダカ、ミヤマホウジロ、ツグミなど
	留鳥	オオタカ、ハイタカ、ノスリ、フクロウ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、ゴジュウガラ、シジュウガラ、ヤマガラ、コガラ、ヒガラ、カワラヒワ、ホオジロ、エナガ、モズ、ヒヨドリ、ウグイス、オナガ、ミソサザイ、キジ、ヤマドリ、カケスなど
	漂鳥	ムクドリ、アオジ、イカル、ウソ、キセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、メジロ、ルリビタキ、アカハラ、トラツグミなど

3) 地質

- 地質は相馬山・ニツ岳は石英安山岩の溶岩円頂丘、他の地域は火山岩屑、凝灰角礫岩などを含む火山噴出物からできている。ニツ岳と相馬山の間凹地が爆裂火口で6～7世紀頃のものと言われている。

(2) 整備状況

- 伊香保森林公園地区の歩道や休憩舎などの整備状況は、図 1-4, 5 に示すとおりである。
- 県立伊香保森林公園は、県民の保健・休養・学習の場として、昭和 55 年 5 月に開園し、県環境・森林局緑づくり推進センターが管理している。
- ツツジ群落や風穴が特徴的であり、また、風穴を利用した貯蔵庫跡地や温泉を利用した蒸し湯跡などの文化的な遺構も残されている。
- ツツジの開花時期と、紅葉の時期には、県内から多くのハイキング客が訪れている。
- 一方、上ノ山公園は伊香保町の都市公園として昭和 37 年 4 月に造成され、同年 8 月にはロープウェイが営業を開始している。その後、昭和 42 年 1 月に町営のスケートセンターが開業し、スケートセンターは平成 11 年に県（教育委員会）に移管されている。
- 本地区は高台に位置していることから、眺望を楽しむ観光客の利用が多く、以前は、見晴展望台付近で茶屋が営業されていた。
- スケートセンターは国際規格の屋外スケートリンクがあり、国体が 3 回、また世界スプリントスケート大会等が開催されている。

図 1-4 伊香保森林公園の整備状況



管理棟



見本園付近の駐車場(トイレ)



「みんなの森づくり」事業による植樹



見本園付近のサイン:改修が必要。



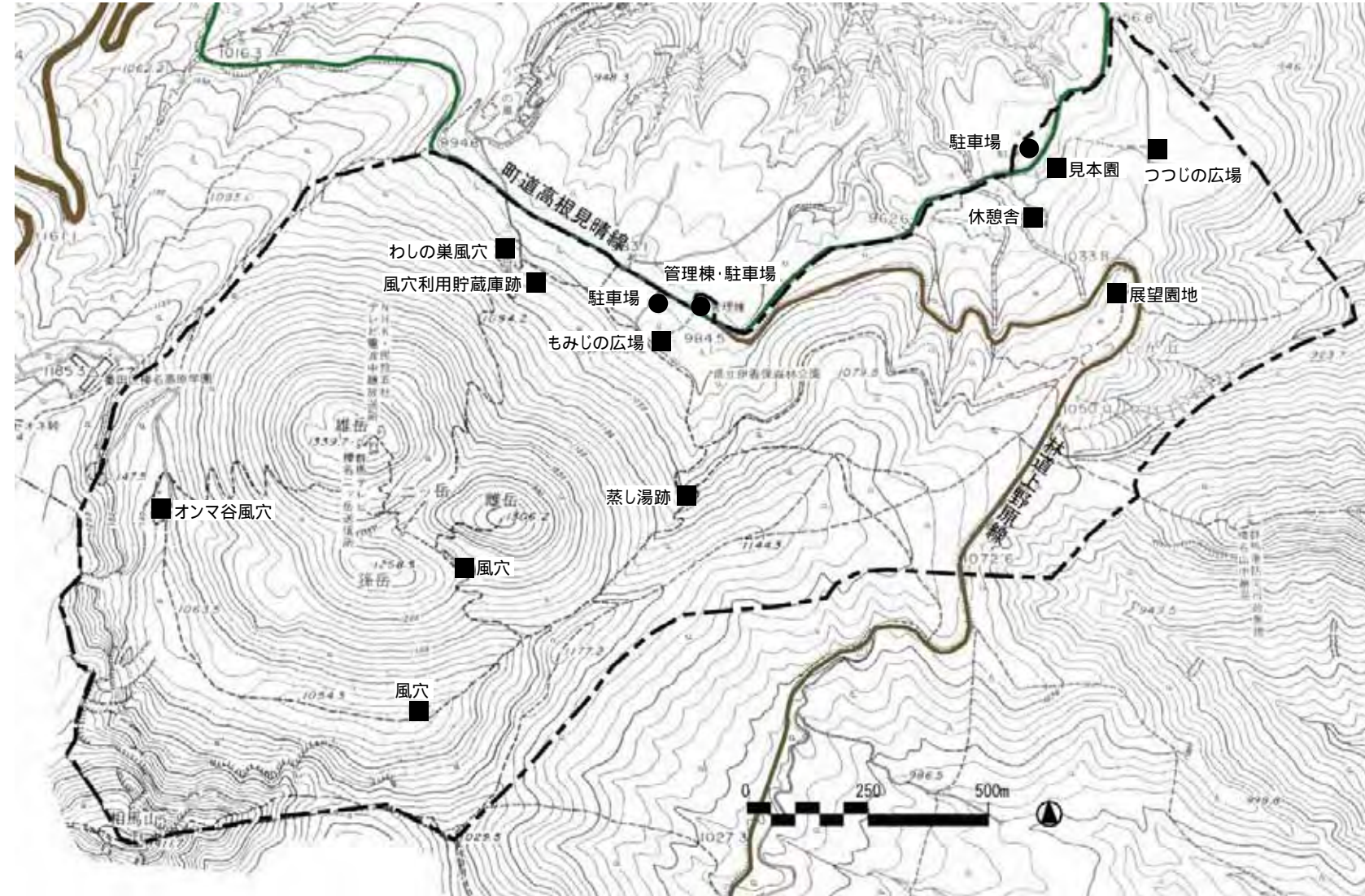
つつじの広場



見本園付近の休憩舎



風穴利用貯蔵庫跡



わしの巣風穴



わしの巣風穴の解説サイン



蒸し湯跡



ふれあい歩道入口



ふれあい歩道:車椅子でもみじ広場まで行くことができる。



森林公園全体の案内サイン



散策道入口のサイン:複数のサインがバラバラに設置していて分かりにくい。



見本園の名称サイン:改修が必要。



もみじ広場



展望園地の休憩舎



展望園地からの眺め(赤城山方面)

図 1-5 上ノ山公園の整備状況



アイスホッケー場



ロープウェイ見晴駅



駅前に設置されている案内サイン：ベンチで見えない部分もある。



誘導サイン



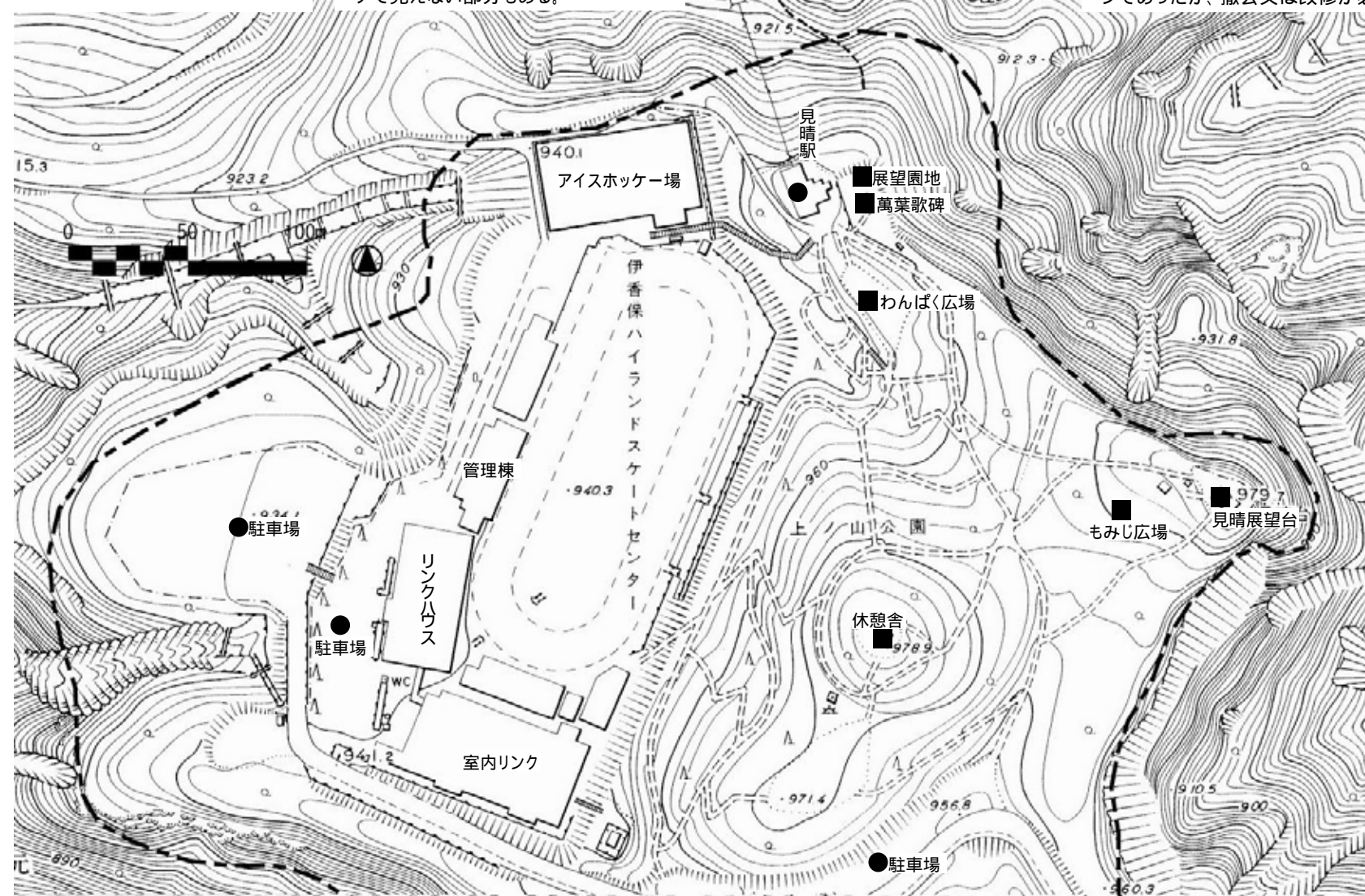
誘導サイン：かつては売店への誘導サインであったが、撤去又は改修が必要。



見晴駅付近の萬葉歌碑



スケート場と見晴駅を結ぶ階段



屋外スケートリンク



屋外リンク



休憩舎からの眺め：高台に立地しているも周囲の樹木で眺望が遮られている。



高台に立地する休憩舎



園路：園内は記念植樹が多い。



もみじ広場内の記念植樹



もみじ広場：なだらかな芝生の斜面



見晴展望台



展望園地



わんぱく広場



見晴展望台の名称サイン

(3) 規制条件

1) 保安林

- ・対象地区は、保健保安林が設定されている。保安林は、景観を保持し自然とふれあう憩いの場として、保健やレクリエーションに活用することを目的としており、立木の伐採及び損傷、土砂の採取及び樹根の採掘、その他土地の形質を変更する行為は県知事の許可を受ける必要がある。

2) 鳥獣保護区・特別保護地区

- ・鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づき、県知事が指定する鳥獣保護区及び特別保護地区は、対象地域のほぼ全域が指定されている。鳥獣保護区では、鳥獣の保護増殖のため捕獲が禁止されており、特別保護地区では、鳥獣の生息環境を保護するため立木の伐採や工作物の設置に許可が必要とされている。

3) 都市公園

- ・上ノ山公園は都市公園法に基づく都市公園であり、施設整備等を行う場合には、法の規定により公園施設として設けられている建築物の建築面積の総計が、公園の敷地面積（10ha）の100分の2（2,000㎡）を超えることは出来ない。

図1-6 対象地区の規制状況（鳥獣保護区、特別保護地区）



3. 運営状況及び利用実態の整理

(1) 利用者の推移

- ・ 県立伊香保森林公園及び上ノ山公園の利用者数の推移は、表 1-3 に示すとおりである。県立伊香保森林公園は、以降減少傾向にあり、平成 13 年度は 106 千人であった。
- ・ ロープウェイの利用者は、まちの駅が整備された平成 14 年度に、前年度から 1 万人 4 千人増加しており、平成 15 年度は 52,757 人であった。その内訳をみると、片道利用者の増加が顕著であるが、これは旅行会社のキャンペーンでロープウェイの片道チケットを無料で提供し、利用者が片道分を負担しているケースも含まれるが、温泉街まで散策する人も増加傾向にあると考えられる。

表 1-3 森林公園地区の利用者数 【人(%)】

		平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
県立伊香保森林公園		136,272	120,521	110,371	110,665	105,978	111,702	97,382
ロープウェイ利用者	片道	5,804(13.3)	5,313(13.9)	5,797(14.3)	5,442(14.7)	6,486(16.3)	11,274(20.9)	11,007(20.9)
	往復	29,174(67.0)	24,598(64.4)	26,393(65.3)	24,184(65.5)	27,590(69.2)	33,781(62.6)	31,385(59.5)
	割引	8,049(18.5)	7,452(19.5)	7,843(19.4)	6,874(18.6)	5,288(13.3)	7,878(14.6)	7,311(13.9)
	団体	526(1.2)	829(2.2)	383(1.0)	435(1.2)	512(1.3)	1,043(1.9)	3,054(5.8)
	合計	43,553(100)	38,192(100)	40,416(100)	36,935(100)	39,876(100)	53,976(100)	52,757(100)

(2) 自然観察会・イベント等の実施状況

- ・ 森林公園地区の自然観察会・イベントは、群馬県主催の行事としては、憩の森・森林学習センターでは 1 年に数回「森で遊ぼう! 学ぼう教室」を開催しているが、伊香保森林公園では定期的に開催している自然観察会やイベントは実施されていない。
- ・ 町主催のイベントは、昨年は 10 月に「ヘルシーハイキング」を開催しているが、毎年継続開催している行事はない。
- ・ 地元観光関係者もこれまでは積極的に活用することはなかったが、近年の自然志向の高まりを受けて、宿泊客に案内するための、従業員研修を兼ねた自然観察会やピクニック等を実施する旅館も見られる。

4. 既存計画における整備の方向

(1) 群馬県の計画

群馬県総合計画・21世紀のプラン

- ・ 群馬県総合計画においては、対象地区に関連する整備の方向として、自然環境に触れる機会を増加させることと、自然環境の保全に関する取り組みが示されている(表 1-4)。森林公園については、保健・休養・学習の場として管理及び整備が行われている。

表 1-4 県総合計画における関連施策

身近な目標	目標の方向性・必要性	具体的な方向性	県行政の取組
本物に触れる	自然や生き物に触れることにより、人間らしさ、生命の尊さを学ぶ	尾瀬や自然公園、そしてふるさとの自然に親しむ機会を増やす。生活の中で木の温かみに触れる。身近な自然や学校で、動植物や小さな生き物に触れる機会を増やす。天文台等を利用しながら、宇宙や自然への理解を深める。	自然環境カレンダー作成 ・群馬県の自然環境をテーマにした写真や情報を盛り込んだカレンダーを作成し、自然環境保全の必要性などの理解を深めてもらう。 自然観察会 ・自然に親しみ、その仕組みを理解し、自然とふれあうためのルールを身につけるため、自然観察会を実施する。 森林公園の整備 ・「21世紀の森」を始めとする県内 8 か所の森林公園の整備を豊かな自然を生かしながら、県民参加で進める。
美しいふるさとをつくる	美しく、豊かな自然環境を守る	尾瀬や自然公園など、美しく貴重な自然を守る。美しい自然景観や保養の場を提供する森林を守り、育てる。自然豊かな溪流環境を守る。	レッドデータブック ・県内に生息する絶滅のおそれのある野生動物について、分布や生息状況などを明らかにするレッドデータブックの作成や保護対策を行う。 自然環境情報の提供 ・県が行った自然環境保全調査結果を環境省の地理情報システムと重ね合わせ、公開用のデータとして県民に提供する。 自然環境の保全 ・自然環境保全条例に基づく指定地域において植生の復元、清掃管理等を行う。全市町村に自然保護指導員を設置する。 保護・風致保安林の管理 ・森林を保安林として指定し、伐採を制限したり、適切に手を加えるなど、必要な管理を行う。保健保安林及び風致保安林の指定。年間 90ha。

(2) 伊香保町の計画

第四次伊香保町総合計画

公園

- ・ 町民公園：自然との共生を目標に、自生する花木等の植物を活かし、景観に配慮した、潤いある公園の整備に向けた取り組みを進める。
- ・ 県立公園：伊香保森林公園を核とした、自然散策道の環境整備に向けた取り組みを進める。

商工業

- ・ エネルギー対策：太陽熱温水器設置助成制度の広報・宣伝を図るとともに、太陽熱発電など新たな省エネルギー対策の研究に向けた取り組みを進める。

自然観光

- ・ 自然景観の整備：広域的な、四季を彩る自然景観の創出を目的に、関係市町村並びに関係機関と連携した施設実施計画策定に向け、取り組みを進める。
- ・ 自然保護の充実：広域的な自然保護充実を目的に、関係市町村並びに関係機関と連携した行動実施計画策定に向け、取り組みを進める。

2章 伊香保森林公園地区の利用促進方策の検討

1. 伊香保森林公園地区整備の基本的な方向性

(1) 整備の基本的な考え方

整備の目的

- ・本計画は、「従来型温泉地再生戦略」の策定にあたり、温泉街に近接する伊香保森林公園地区の整備方向を検討するものであり、今後の伊香保温泉の一つの方向である「滞在型温泉地」の実現に向けて、伊香保森林公園地区においてもその受け皿となる、温泉客が日常生活を離れてのんびりと滞在するための環境（非日常環境）づくりを行うことが大きな目的となる。
- ・同時に、これまで伊香保森林公園地区が担ってきた、県民への「保健」「休養」「学習の場」としての機能を維持・強化するための整備を行い、県民の利用を促進することも目的の一つとなる。

主要なターゲット

- ・本計画において、狙うべき主要なターゲットは、整備の目的に沿って以下のようなものが考えられる。

伊香保温泉の滞在客：主に地域の自然・歴史・文化等を散策で楽しみに訪れる

日帰り観光客：主に自然風景やパノラマ景観を楽しみに訪れる

レクリエーション客：主に県内からハイキング・ピクニック・スケート等に訪れる

県内小中学校の児童・生徒：主に自然環境学習に訪れる

課題の整理

- ・前述の整備状況を踏まえ、上記の整備目的を達成するための課題を、以下に整理する。

温泉滞在・滞留客利用の受け皿と受け入れ体制の整備

- ・伊香保温泉の滞在客が滞留するための受け皿となる資源としては、現在、ツツジの群落やモミジの園地などがあるが、季節性が強く楽しめる期間も短いため、年間を通じて滞在客を楽しませる施設や資源、体験メニュー等の整備が課題となる。

新たな自然学習拠点の整備（移転）

- ・自然環境学習を充実させる上では、活動拠点となる施設の整備が必要となる。自然学習拠点については、憩の森に森林学習センターが整備されているが、フィールドの面積が伊香保森林公園よりも小さく、現状では伊香保温泉の滞在客などの利用もあまり期待できないことから、同施設を森林公園内に移転することが有効と考えられる。

伊香保温泉からの周遊性の確保

- ・温泉街から伊香保森林公園地区までは、伊香保神社とスケートセンターを結ぶ遊歩道とロープウェイで結ばれているが、温泉街から一筆書きで周回出来るように、歩道整備やコース設定を行う必要がある。

老朽施設の改修・整備

- ・両公園とも既に関園から長い年月が経過しており、施設の新設や更新も行われてはいるが、休憩舎やトイレ等の施設やサイン類の老朽化が目につくところも少なくない。今後観光客や温泉滞在客の利用を促進するためには、老朽化施設の改善が不可欠であり、撤去・改修・再整備に早急に取り組む必要がある。

管理運営体制の充実化

- ・県立伊香保森林公園では、来訪者が安全にハイキングやピクニックを楽しめるように、管理棟に職員を配置して管理を行っているが、温泉滞在客が滞留するための環境を整備して利用促進を図るには、これまで以上に情報提供等のサービス体制を充実させる必要がある。

(2) 環境保全方針の検討

- ・本計画地は、前述の規制条件で見たように、保安林、鳥獣保護区、特別保護地区に指定されており、施設整備等を行う際には、動植物などの自然環境の保全に配慮すると同時に、自然環境を五感で味わえるようにする必要がある。本計画においては、以下に示す環境保全方針が考えられる。

地形の改変や樹木の伐採を最小限に止める

周辺環境と景観的に調和した空間整備を行う

環境の維持・向上のために自然エネルギーを積極的に活用する

風の音、鳥のさえずりなど、自然の音を楽しめるように人工的な音の抑制に努める

(3) 整備方針の検討

- ・整備の基本的な考え方を受け、以下のような整備方針が考えられる。なお、景観整備については、別途検討が進められている「景観ガイドライン」に沿って実施することが望まれる。

年間を通じて楽しめるハード・ソフトを用意する

風穴、遺構、温泉などの地域特有の資源を活用して地域個性を強調する

見晴らしの良い高台であることを活かして眺望を楽しめるようにする

湯元温泉公園等との連携を強化し伊香保温泉からの周遊性を高める

拠点施設を整備主体以外の関係機関が協力して活用し整備効果を高める

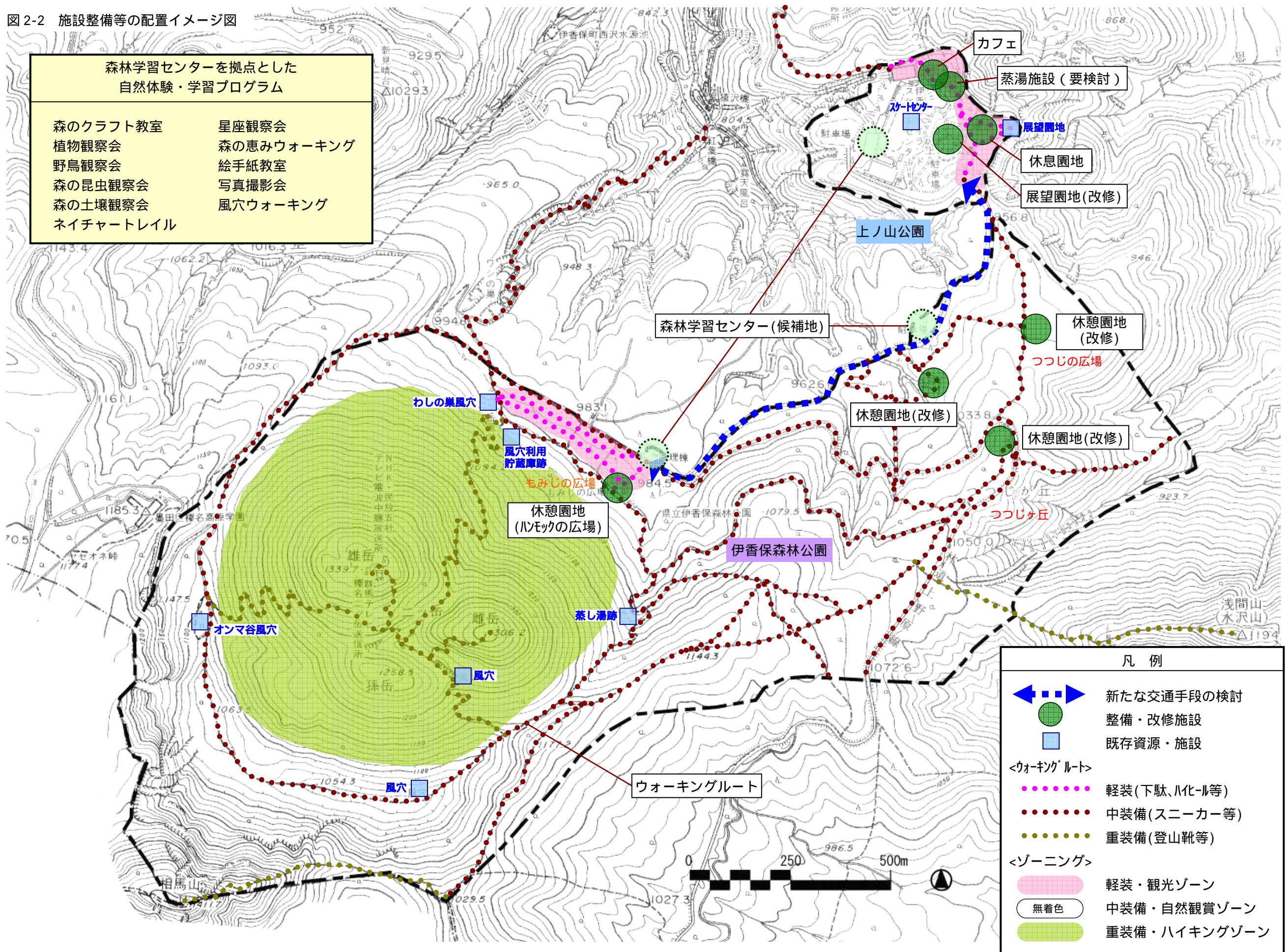
2. 利用促進方策の検討

- ・以上の検討結果を踏まえ、伊香保森林公園地区で展開すべき利用促進方策を示すと、図 2-1 のようになる。
- ・なお、前述の「主要なターゲット」で示したように、様々な利用者が想定されることから、軽装の観光客、重装備のハイキング客というように、それぞれのターゲット対応したゾーンを設定する必要がある。

図 2-1 森林公園地区の利用促進方策の施策体系



図 2-2 施設整備等の配置イメージ図



森林学習センターを拠点とした
自然体験・学習プログラム

森のクラフト教室	星座観察会
植物観察会	森の恵みウォーキング
野鳥観察会	絵手紙教室
森の昆虫観察会	写真撮影会
森の土壌観察会	風穴ウォーキング
ネイチャートレイル	

凡例	
	新たな交通手段の検討
	整備・改修施設
	既存資源・施設
<ウォーキングルート>	
	軽装(下駄、ハ化-ル等)
	中装備(スニーカー等)
	重装備(登山靴等)
<ゾーニング>	
	軽装・観光ゾーン
	中装備・自然観賞ゾーン
	重装備・ハイキングゾーン

蒸湯施設の整備

計画の視点

- ・伊香保温泉では、温泉量を確保するために、元湯地区から湧出している温泉を引湯し、スケートセンター付近に加温施設を整備することが検討されている。したがって、余剰な湯量が確保できれば加温施設に近接する森林公園地区への誘客手段として、温泉を活用した施設を整備することも考えられる。
- ・ただし、立地条件からして大量の利用者確保は難しいことから、仮に温泉施設を整備する場合でも、はじめは仮設的な施設で対応し、事業採算性の目処が立った場合に本格化の検討を行う必要がある。
- ・温泉施設の展開方向としては、かつて二ツ岳の山麓で親しまれていた蒸湯を現代風に再現することが考えられる。また、パノラマ景観が楽しめる展望露天風呂も、魅力的な施設になると考えられる。

計画の内容

①蒸湯施設（事業化が可能とされた場合）

- ・上ノ山公園内への設置が想定される温泉施設としては、小規模な蒸湯、窯風呂、露天風呂の整備が考えられるが、当初は仮設的な施設で対応する。
- ・整備場所は、温泉街から浴衣がけで気軽に利用できるとともに、パノラマ景観を楽しめるように、上ノ山公園内のロープウェイ駅から直接入場できるようにすることが考えられる。

露天風呂のイメージ

施設断面のイメージ

イメージ図は委員会資料による

森林学習センターの整備

計画の視点

- ・町内には伊香保森林公園の他に「憩の森」が県道前橋・伊香保線沿いに整備されているが、同種の施設を集約化して魅力を高めるため、「憩の森・森林学習センター」の機能を本地区に移し、自然体験・学習の拠点施設を整備する。
- ・森林学習センターでは、これまで伊香保森林公園の管理棟で実施してきた公園管理や、当該地区の来訪者への情報提供を行うと共に、自然体験・学習プログラムの活動をサポートする施設としても位置づけ、ボランティアガイドや森林インストラクター等の活動拠点としても活用する。
- ・プログラムに参加しなくても、来訪者に施設で楽しんでもらえるように、展示コーナーを設け、園内で観察できる花の紹介や、自然体験プログラムの開催状況をビジュアルに展示する。
- ・施設を県立伊香保森林公園内に整備する場合は、「現在の管理棟を拡充する」または「上ノ山公園付近の駐車場に新規に整備する」ことが考えられる。また、利用シーズンが異なるスケートセンター（県教育委員会所管）の施設を活用する方法も考えられる。

計画の内容

①展示室

- ・森林公園で観察できる野鳥や草花、風穴や蒸湯跡等の遺構などを、ジオラマやパネル等で紹介する展示室を整備する。自然体験・学習プログラムの活動状況を写真等で紹介する展示も行う。

②資料室

- ・自然体験・学習に関する一般的な書籍や雑誌等の資料の他、現地で実施した植生調査や生態調査等の資料も閲覧できるようにする。

③集会室

- ・自然体験・学習プログラムにおいて、そのガイダンスや講習会等を行う講義室として整備する。ボランティアガイドや森林インストラクターの集会所としても活用する。

④情報案内コーナー

- ・温泉街では把握できない花の見頃や、開花場所などの現地情報を収集し、地図を掲示して分かるようにしたり、パソコンで情報検索したりするコーナーを設置する。

⑤休憩コーナー、事務室、トイレ

- ・簡単な休憩コーナー、事務室、清潔な水洗トイレを整備する。



展示室には、自然を五感で楽しめる仕掛けを用意する。（河口湖フィールドセンター）

ロープウェイの利用促進

計画の視点

- ・ 蒸湯や森林学習センターの整備などの森林公園地区内の新たな施設整備や、自然体験プログラムなどのソフト事業によるロープウェイの利用は促進に加えて、ロープウェイ施設自体の魅力向上により利用促進を図る。
- ・ 近年、不如帰駅がリニューアルされ、ロープウェイ利用者が増加していることから、見晴駅についてもリニューアルを検討する。将来的に蒸湯施設の整備が実現化した場合には、全面的なリニューアルも検討すべきであるが、当面は既存施設を活用し、待合所を展望カフェとして改修する。
- ・ 不如帰駅において、ロープウェイの眺望の良さや森林公園の様々な魅力について情報発信し、温泉街からの誘客を図る。

計画の内容

①見晴駅待合所のカフェ

- ・ ロープウェイの待ち時間にくつろげるように、見晴らしのきく待合所にカフェを設置する。
- ・ ロープウェイ乗車料との割引セット料金切符なども検討する。

②見晴駅からのライブ映像の配信

- ・ 町の情報サイトで石段街のライブ映像を配信しているように、見晴駅からのパノラマ映像を配信する。不如帰駅にモニターを設置して見られるようにするとともに、役場や観光協会の情報サイトでも配信で着るようにする。

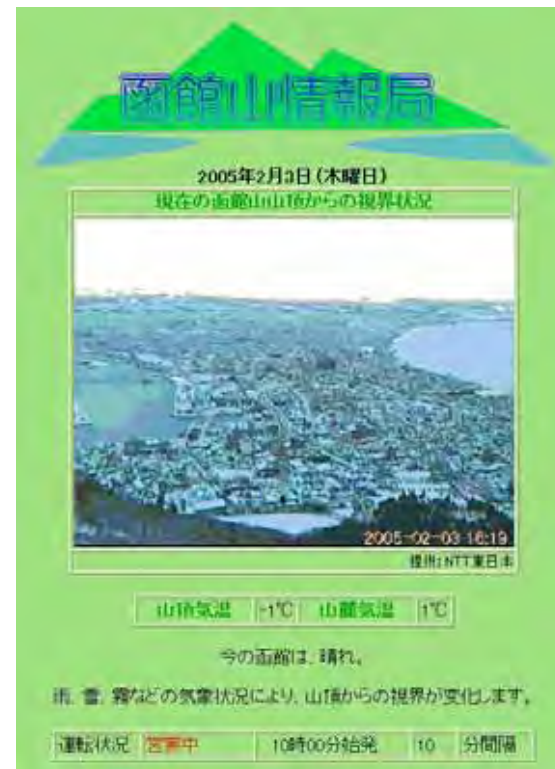
③森林公園の体験メニュー等の紹介

- ・ 不如帰駅において、森林公園の開花情報や体験メニューの情報を掲示する。



眺望の良さを活かしたカフェを整備する。(山梨県勝沼町・ぶどうの丘)

函館山のロープウェイでは、山頂駅からのライブ映像をインターネットで配信している。



休憩・展望園地の補修・整備

計画の視点

- ・ 伊香保森林公園及び上ノ山公園は、開園から長い年月が経ち、老朽化が目立つ施設も多く見られるが、伊香保温泉の滞在客が滞留する空間としていくには、ある程度の施設水準が求められることから、施設の更新を適切に行っていく必要がある。
- ・ また、樹木の成長とともに、休憩園地で樹木に遮られて見通しがきかなくなっている場所もあり、施設の魅力を維持していくための整備も求められている。

計画の内容

①見通し抜開

- ・ 伊香保森林公園及び上ノ山公園にある、既存の休憩園地や展望園地において、ランドマークの二つ岳やパノラマ景観が期待できる各方面の見通しを確保するため、周囲の樹林を見通し抜開する。

②既存施設の補修・整備

- ・ 老朽化が目立つベンチ、休憩舎などの休憩施設を順次補修・整備する。
- ・ 新たな魅力づくりとして、ハンモックやデッキチェアを配置して、のんびりとくつろぎ滞在出来る休憩園地を整備する。



見通し抜開によって、絶好のピクチャースポットになる。(山梨県山中湖村)



休憩園地には、休憩しながらじっくりと見てもらう解説看板を整備したい。



森林公園でのんびりと滞在できるように、時をわすれて自然の中に浸れる心地よい空間を整備する。自然の音をじっくり味わえるように、携帯電話の使用や大声での会話を制限する注意看板等を設置する。

アクセス路等の充実

計画の視点

- ・利用者の多様なニーズに対応するため、温泉街と伊香保森林公園地区とを結ぶ多様なアクセスルートを確認する。伊香保温泉滞在客においても、近年の自然志向や健康志向の高まりの中でウォーキング志向の人々が増加していくと考えられることから、特に遊歩道の充実を図る。
- ・園内の歩道については、伊香保温泉の滞在客や日帰り観光客、ハイキング客など様々な利用者の歩行条件に対応した歩道整備が求められる。
- ・また、ロープウェイの見晴駅から伊香保森林公園の管理棟やモミジの広場付近までは、ハイキングや登山などの歩行目的の人達以外にはかなりの距離感（約1.5km）があるため、何らかの交通手段を用意して到達性を高め、利用促進を図ることも検討すべき課題となる。

計画の内容

①アクセスルートの整備

- ・温泉街と森林公園とのアクセスルートを充実させるため、伊香保神社からスケートセンターまでの既存道の改修と、湯元源泉公園と森林公園地区とを結ぶ歩道の整備を行う。

②歩道の整備

- ・当地区を訪れるさまざまな利用者の実態に合わせて、森林公園地区のゾーニング（図2-2参照）に沿って、歩行路面の仕上げや整備水準の異なる散策道の整備を行う。例えば、ハイヒールや下駄履きでも歩ける歩道（散策路）、スニーカー程度の装備が望ましい歩道（遊歩道）、登山靴などの本格的な装備が必要な歩道（自然歩道）というように、ゾーン区分で傾斜や路面状況を判断できるようにする。

③新たな園内輸送手段の確保

- ・スケートセンター付近と伊香保森林公園管理棟付近を結ぶ交通手段として、馬車、電動カート、レンタサイクル等を試験的に導入し、新たな施設の整備状況に合わせて本格実施を目指す。



新たな交通手段としては、名物となるような乗り物の導入も検討したい

サイン類の補修・整備・統合

計画の視点

- ・はじめての来訪者でも園内を迷わずに巡れるように、分かりやすい地図を作成し、地図情報とリンクしたサイン類を設置する。森林公園は、高低差があり樹木で見通しのきかない空間的な特性によって、現在位置を把握しにくいことから、統一されたサインシステムを整備する。
- ・園内には、老朽化して表示が不鮮明なサイン類が残されていたり、設置時期が異なり複数のサインがバラバラに設置されていたりして、利用者の利便性を損ねているサインも見られることから、サインの補修・統合を適宜行う。
- ・伊香保温泉の滞在客や日帰り温泉客の利用を促すために、園内に点在する花の群落や紅葉スポット、風穴を利用した貯蔵庫跡地や温泉を利用した蒸し湯跡等の文化的な遺構などを、テーマ別に結びつけた散策コースを設定し、各コースが分かるサインを整備する。

計画の内容

①サイン類の補修・整備・統合

- ・サイン類の種類としては、来訪者が目にする順に、「総合案内サイン」「誘導サイン」「名称サイン」「解説サイン」があり、これらを基本的なシステムとして園内全域に整備する。
- ・「総合案内サイン」は、森林公園地区全体の地図と現在位置を示すサインで、公園の入り口、散策道の入り口、駐車場、休憩園地、トイレ等に設置する。
- ・「誘導サイン」は、目的とする施設や資源の方向を示すサインで、散策道の入り口、散策道の分岐点等に設置する。長い散策道で分岐がない場合は、等間隔に適宜設置する。
- ・「名称サイン」は、施設や資源の名称を示すサインで、施設や資源の入り口部分に設置する。地図情報と同じ表記にする必要がある。
- ・「解説サイン」は、特定の施設を詳しく紹介するサインで、見学や観察する位置に設置する。

②散策コースの設定

- ・園内の施設や資源を組み合わせる散策コースを設定し、サイン類を整備する。例えば、以下のような散策コースが考えられる。
「もみじの広場・バリアフリーコース」、「雄岳・雌岳健脚コース」、「風穴・遺構巡りコース」
「パノラマ絶景巡りコース」、「つつじヶ丘・花見コース」



植物のサインは、品種名の表示だけでなく花の写真や解説などを加え、自然体験・学習に訪れる人にも十分役立ち、また、一般来訪者の興味も引き出せるようなプレゼンテーションに心がける。

自然体験・学習プログラムの実施

計画の視点

- ・森林学習センターを活動拠点として、滞在客や一般県民向けに、年間を通じて様々な自然体験・学習プログラムを実施する。拠点施設の運営主体と町内関係機関が連携し、ターゲット別にプログラムの充実化を図る。
- ・県内小中学生向けのプログラムは、教育委員会等と連携して、遊びながら自然環境を学べる内容とする。伊香保温泉の滞在客や日帰り観光客向けのプログラムは、観光協会や旅行会社等と連携して、自然の楽しみ方を気軽に体験できる内容とする。

計画の内容

①県内小中学生向けのプログラムの実施

- ・県内小中学生主なターゲットとしたプログラムとしては、以下のようなものが考えられる。

<プログラム例>

森のクラフト教室：野外フィールドで自ら材料を調達し、木工細工、竹細工、押し花などを行う。

植物観察会：森林公園周辺の植生の特徴を説明しながら、野外フィールドの植物を案内する。

野鳥観察会：森に生息する野鳥の生態やについてセンター施設でレクチャーし、双眼鏡と野鳥図鑑を貸出し、野外フィールドをインストラクターが案内する。

森の昆虫観察会：森林公園にすむ昆虫から、あるテーマを決めて詳しく調査・観察・実験を行い、生態や取り巻く自然環境を学習する。

森の土壌観察会：森の土壌に目を向け、森林の仕組みやその成り立ち、そこで活躍する生き物たちについて実験を交えながら調査・学習を行う。

ネイチャートレイル：自然観察のテーマを決め、散策路に問題を設置し、参加者が答えながら進む。問題は樹木・野鳥・人々の暮らしなど、自然と文化を学習する内容とする。

②滞在客向けのプログラムの実施

- ・伊香保温泉滞在客を主なターゲットとしたプログラムとしては、以下のようなものが考えられる。

<プログラム例>

星座観察会：夜の暗闇の中で、市街地の夜景と星座を楽しむ。

森の恵みウォーキング：山菜や木の実など、食材探しウォーキングを野外フィールドで行い、簡単な料理やデザートをつくって楽しむ。

絵手紙教室：季節の花、展望台からの眺望など、毎回テーマを決めて絵手紙を描く教室を開催する。

写真撮影教室：プロのカメラマンにより、カメラの基本操作から高度な撮影技術を指導する。撮影された写真は、センター施設に展示したり、施設の紹介に活用したりする。

風穴ウォーキング：ニツ岳の風穴や蒸し湯跡地を巡り歩き、遺構について解説を行う。

- ・雨天時の対応や小中学生の団体への対応を図るためには、オフシーズン期間におけるスケートセンター施設の部分的な活用が可能となることが望ましい。

群馬県水上町の藤原地区で導入している様々な体験プログラム

流木ネイチャークラフト



洞窟ハイキング



森林探索



山伏体験



すだれづくり



情報提供システムの充実

計画の視点

- ・インターネットの情報サイトは、観光情報を提供する上でごく一般的な手段となっており、近年のインターネット利用者の拡大や、個人旅行者の増加によって、今後ますます重要な情報提供手段になると考えられる。
- ・伊香保森林公園に関する情報は、町役場のホームページで概要が紹介されているが、伊香保森林公園地区の施設や自然体験プログラムの内容を認知してもらうために、インターネットサイトの情報内容の充実化を図る。
- ・地図やパンフレット類は、施設や資源の魅力を伝える重要な情報提供媒体であるが、誘客効果を高めるため、ある程度ターゲットを絞り込んで、ターゲットのニーズを意識した地図やパンフレットを作成する。

計画の内容

①インターネットサイトによる情報提供

- ・インターネットサイトは、観光協会等と連携して、園内施設の紹介やイベント情報の他、花の見頃や眺望に関する動態情報も提供できるようにする。

②地図・パンフレット類の充実化

- ・本計画においては、伊香保温泉滞在客や県内小中学生などターゲットを意識したハード整備及びソフトプログラムが提案されている。地図・パンフレット類もターゲット別に作成し、利用者の利便性を高める。



インターネットの情報サイトでは、園内で見られる花の種類を紹介するとともに、現在どの花が見頃かを発信していくことが重要である。(箱根湿性花園のホームページ)

3章 今後の課題

- ・本調査は、伊香保町の上位計画や関連計画、及び委員会における委員の意見等を踏まえて取りまとめた資料であるが、短期間で策定したものであるため、今後一般の町民に向けて調査結果を広報し、必要に応じて修正を加えていくことが望ましい。
- ・また、施設整備や体験プログラムは、町内の観光事業者をはじめとする関係者と共に、事業の仕組みづくりや採算性について、議論を深めていく必要がある。
- ・事業展開においては、施設の補修・整備を適宜進めるとともに、ソフトプランである自然体験・学習プログラムの実施に関して、地元関係者等との調整や連携を早期に開始し、事業化に向けた体制づくりを進める必要がある。
- ・今回の計画の大部分は、県立伊香保森林公園の整備活用に関する提案であることから、実現に向けて早期に群馬県に働きかけ、計画内容を調整していくことが重要である。

参考

森林公園地区で楽しめるメニューの例

	楽しめる時期 (■ : 最適、 ■ : 適)	備考									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
施設	蒸湯										
	森林学習センター										
	展望カフェテリア										
	スケートセンター	10中~3下									
自然風景	つつじヶ丘・つつじの広場	5中~6上									
	もみじの広場	10下~11中									
	カラマツの林										
サイト	ハンモックの広場										
	休息広場										
自然体験・学習プログラム	森のクラフト教室										
	植物観察会										
	野鳥観察会										
	森の昆虫観察会										
	森の土壌観察会										
	ネイチャートレイル										
	星座観察会										
	森の恵みウォーキング										
	絵手紙教室										
	写真撮影教室										
風穴ウォーキング											

足もと別森林公園内の散策路区分例 (森林学習センターは現在の管理棟の位置を想定している)

足もと	散策路
①軽装 (下駄、ハイヒール) 【バリアフリー対応を進める】	・温泉街 - 見晴駅 - 蒸湯 - 見晴展望台 - 上ノ山公園南側駐車場 ・見晴駅 - スケートセンター ・森林学習センター - もみじの広場
②中装備 (スニーカー、運動靴)	・温泉街 - スケートセンター - 森林学習センター ・森林学習センター - つつじの広場 - つつじヶ丘 - 蒸湯跡 ・もみじの広場 - 蒸湯跡 - オンマ谷風穴 - わしの巣風穴
③重装備 (トレッキングシューズ、登山靴)	・オンマ谷風穴 - 雄岳・雌岳 - わしの巣風穴 ・水沢観音方面 ・榛名山方面

